

日本環境教育学会 関西支部通信 かんさい

えこめいる

NO.12

1992.5



環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと、関西の環境教育に関する情報交換をしていただくために発行しています。また学会員外の方々の環境教育に関心を持っておられる方や、実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費(1年分)をいただきましたら、ワークショップの案内葉書とE-MAILを送らせていただきます。

通信費振込先 郵便局「大阪 9-37886」環境教育学会関西支部

次回 関西支部 ワークショップのお知らせ

6月27日(土) PM2:30~5:00

フラジル地球サット報告

グローバル環境文化研究所
岡 靖敏

於 大阪教育大学天王寺校

JR環状線 寺田町陣

第18回 環境教育学会 関西ワークショップ

「里山での環境教育の実践」

久山 真之佐佳

法然院森の教室の活動は以前、このエコメールでご紹介したことがありましたが、改めてこの場で教室の目的と活動概要を説明させていただきました。

森の教室の活動のきっかけは、ひとりのバードウォッチャーとお寺の住職との出会いでした。バードウォッチャー氏は自然の素晴らしさとともに失われ行く自然について多くの人々と語り合う場が無いものかと思ひ、住職氏はお寺を新しいとか本来的なコミュニティーの場にしたいと考えておられ、その二人の意気が合った事で今の法然院森の教室がはじめられたのです。月1回の例会、市民参加のいきもの調査、子供たちの環境教育の実践「森の子クラブ」と多彩な活動が繰り広げられています。

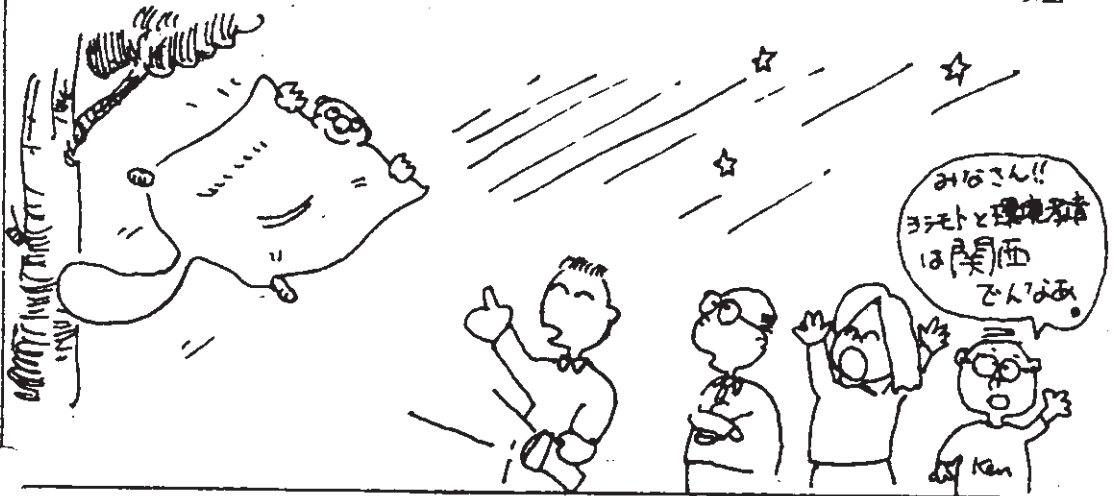
その教室活動を通して、今、環境教育を考えると、私たちは大きく二つのことを提案したいと思います。ひとつは、「場」の持ち方です。私たちの身のまわりには、単なる自然環境としての場以外に公園やお寺や河川敷と多くの公共的な空間があります。その場を環境教育のフィールドとして、欲深く見ていきますと、いろいろな素材が見えてき、アイデアも浮かんできます。そして、何よりも市民の方々が抵抗無く、その場を受け入れることで、環境教育の実践が容易に新たな地域への視点へと繋がっていくのです。環境教育という事柄が隣人たちにも受け継がれていくのもこのような場からの発信が支えになるでしょう。次に、環境教育のプログラムの持ち方は、素材（要因）があり、フィールド（場所）があり、活動があり、そして創造がなければならないということです。つまり、活動を通して、得たものが確かに見えてくる仕組みを作る必要があるのです。いろいろなやり方があると思いますが、例えば私たちは市民参加のいきもの調査で、自分たちの発見を多くの人々そして地域の共通の財産としていくことを行っています。フィールドガイドの出版もそのひとつです。話は少し飛びますが、東京の駒場では、市民参加の公園づくりの実践があります。以前から住民が親しんできた空間をよりよく残したい。その願いがかなって公園が作られ、雑木林や水田まであるような独特な公園ができました。そして現在も公園は世代を越えた貴重な環境教育実践の場ともなっているのです。

さて、「森の子クラブ」の活動はとにかく子供たちの好奇心をそそり、本来持っているものを引き出すことを念頭に様々なプログラムを行っています。年間10回と合宿、数こそ多くありませんが、忙しい学校生活では味わえない体験がまっています。自分を解放できる「原っぱ」的存在でありたいと思います。

さて、第2部ではオプションで「むささびウォッチング」が開かれました。まずは、ムササビ観察の基本などを説明し、本日現れそうな場所（巣）を予め下見をしました。日も暮れる6時40分ころ、いつもの（これは私たちの）ポイントに陣取って、息をこらえて待ちました。これが実に長く感じるものなのですが、当日は飛び入りでふくろう君が登場してくれて、その鳴き声に耳を傾けました。とその時、あてにしていた巣からではなく、どうも隣の木から突然ムササビが現れ、皆びっくり、「思っていたより大きい」というのが第一の感想だったようです。それからというもの、次々と他の個体も姿を現し元気よく活動を展開してくれました。皆、興奮の坩堝、懐中電灯はサーチライトさながら、樹上のムササビを照らします。「飛んだ」！そうです私たちの真上をついに大滑空してくれたのです。その後急に森は静まりかえり、30分程のムササビたちの元気印のワークショップは終わりをづけました。

第2部の締め括りがよかったので、今回のワークショップは盛会のうちに幕を閉じることができました。京都での初の関西ワークショップ、素晴らしい交流の場が持てたことを嬉しく思います。

以上



オーストラリア自然教室7月29日(水)～8月9日(日)

主催 神戸日豪協会
兵庫県自然教室

募集 25名

後援 兵庫県・兵庫県教育委員会
(予定) 神戸市・神戸市教育委員会
オーストラリア・ノーザンリリア政府
オーストラリア総領事館

対象 小学校6年生以上高校生まで

申込締切 平成4年5月23日(土)

申込先 ㈱日本交通公社神戸三ノ宮支店

引率 兵庫県自然教室リーダー4名

オーストラリア自然教室係(担当布野)
電話078-252-1017

費用 425,000円

元=ぬいる
-3-

普通、人を紹介するときには、まず一言で語るにはあまりにむずかしい。

しかし岡さんはそうじゃあない。3つの言葉がすべてを表す。

「情熱」「誠実」「純情」

岡さんは若き日、北大に農業を学んだ。北の大地は大きなものを育てる。クラーク博士の言葉を追い求めるいまも“青年”である。

最近のわたしの断片（かけら）

岡 國太郎

最近企画したこと

この春千刈キャンプの栗園近くの荒れ地に目をつけ、開墾して蕎麦でも植えようかと考えた。知恵袋のおっちゃん（80歳）に相談したところ、「あれだけ草がはびこっていたら、いっぺんに開墾するのは大変。小さい区画に区切ってポツポツかじいて（三田弁？）行く方がいい。」とのアドバイス。それを聞いた途端、

区画に区切る＋開墾＋収穫＝市民農園（クラインガルテン）

土とのふれあい＋自然との格闘＝人とのふれあい＋自然とのふれ合い

無農薬栽培＝食の原点

大地の恵みを実感＝創造主（神）との出会い＝究極の環境教育

などとわけのわからない方程式が浮かんで来た。早速それを実現するための企画を練った。かくしてできあがったのが名付けて「ウィークエンドファーマー」なるもので「菜園主（さいえんす）」を募集したところ18口の申込があつて予定の区画はあつという間にすべて埋まった。この制度のミソは一般の貸し農園と違って、整備された耕地を提供するのではなく、「開拓から収穫まで」と銘打って開墾から参加者が行うところだ。各参加者は家族連れ、グループで開墾耕作という初体験に挑んでいるところである。

最近頭の中が空白になったこと

『グリーン・パワー』4月号に載っていた次の一文を呼んで頭の中が一瞬空白になった。「何年かまえ、日本の市民運動の人たちがアフリカの人と交流したとき、日本側がジュースやコーラの空き缶の回収運動をしていることを紹介した。話を聞いていたアフリカの女性が、驚いたように、日本にはそんなに水がないのか、と質問したというのだ。」アフリカの人からみれば空き缶を回収するほど多量にジュースなどを飲むのは日本には飲料水がないためだと考えたらしい。彼女たちが取り組んでいたのは、燃料を効率的に使うようなかまど作りだったという。

最近元気づけられたこと

清里環境教育フォーラム参加者のなかにはご存じの方も思うが、先日、

赤
返むつみさんから結婚を知らせるはがきが届いた。そのはがきにいわく「悟（ご主人）は5年間勤めたNHKをやめ、むつみはJVC（日本国際放送センター）のスタッフになり一緒に同じ夢を追いかけようと新しいスタートをきりました。これから3カ月間タイ北部の農村で研修を受け7月には二人でラオスに入る予定です。むつみはそこで農村開発プロジェクトに参加し、悟はこれまでの経験を活かしてアジアと日本をつなぐ道を模索するつもりです。未熟な二人ですが未熟だからこそ選んだ新しい道を楽しんで進んで行こうと思います。」（下線部筆者）このはがきを見て心底彼らの若さとロマンには負けたと思い、すぐペンを取って、「君達の若さとロマン特に上記下線部のフレーズには完敗で乾杯だ。」とタイへ書き送った。折り返し返信も届き彼らの手紙が今の自分に取ってなによりの「元気玉」になっている。

最近感激と緊張のあまり失敗したこと

先日、国立民族学博物館「みんぱく」に一人でかけた。お目当ては企画展「文明の十字路・ダゲスタン――コーカサスの民族美術」だった。平日でもありゆっくりと見て回ることができた。屋近くになったので付属のレストランにはいった。サンプルに「C I Sランチ」（1800円）なるものがあったので、給料日前ではあったが休日を満喫する意味もこめて昼間から800円のビールもつけて奮発してしまった。「C I Sランチ」が出てきたとき本能的に「これはナイフフォークで食べるより、手で食べる方がうまそうだ」と思い、以前アラブの国を歩いたころのことを思い出し、女房子供を連れてないしお客も少ないのを幸い、ご飯の上にスープ類をかけて手でつまんで食べた。手で食べながら「地球上の半数以上の人間はおそらく手で食べる文化圏の人たちなのだ」などと考えながら至福の時を過ごした。食事の後、手に少々羊肉の臭いを残したままレストランを出た。そのときちょうど梅棹忠夫館長がお一人でレストランに入れようとしていた。梅棹先生には学生時代の頃からあこがれていて自分が死ぬまでにぜひお逢いしてお話をしてみたいと二十数年来思い続けていた。その先生がお目を悪くされ杖を引きながら目の前に立っしやるので小生びっくりしてしまっ、まさに淡き初恋の人に再会できたような否それ以上の狼狽ぶりだった。神が与えてくれたこのチャンスをのがすものかと声をかけようとするもののかえって上気してしまっ出てきた言葉は「ぼ、ぼ、ぼくは先生がご存命中に一度お目にかかりたいと思っていました」だった。今から思っても腋の下から冷汗が落ちるおもいだ、先生は笑いながら「私は当分生きていますよ」といってフォローしてくれたのだが……。

最近気にかけていることば

「ねらいは深く、しかけは軽く」

「エンターテイメント」

「出る杭は打たれるが、出すぎた杭は打たれない」

プロフィール

1949年岡山県生まれ。大学は農学部農学科卒（ある先輩に「農学部農学科とは何をするところですか」とたずねたら「イモを作って食うところや」と言われて選んだ。）卒業後は畑違いの家業の造船業を継ぐ。造船不況で会社整理中露頭に迷っていた時関西学院に拾い上げられ千刈キャンプの現場9日目。

日本環境教育学会 第3回大会開催報告 (関西エコメール版)

日本環境教育学会の全国大会も3回目を数え、今年は愛知県刈谷市の愛知教育大学において、5月16日(土)・17日(日)の両日開催されました。

1日目は午前中の一般講演、昼食をはさんだ小集会のあと、午後からはホンモノのナチュラルリストである柴田敏隆氏がコーディネート、金田平氏(日本自然保護協会)、山田卓三氏(兵庫教育大学)、進士五十八氏(東京農業大学)をパネラーとして全体でのシンポジウム「今、求められている環境教育Ⅲ」が行われました。三氏とも、パネラーを務めるようにと柴田氏から依頼があったのは前夜のことだったので、あんまり考えていませんとのことでしたが、それによって、むしろ柴田氏の鋭い切り込みに対して、それぞれホンネの部分が出たようです。

その後全体シンポジウムを受けたかたちで、5会場に別れて分科会方式でのシンポジウムが行われました。シンポジウムでの白熱した雰囲気は、引き続き行われた懇親会に持ち越され、アルコールとおいしい食事によってますます盛り上がりを見せました。

2日目の午前中は、お猿の河合先生として有名な日本モンキーセンター所長の河合雅雄氏に、「子どもと自然」というタイトルでご講演いただきました。なぜ子ども時代から自然や緑に親しむことが大切なのか、ということやサルと人間の違い、社会や家族状況、しつけの変化、日本の自然観など様々なポイントからお話いただきました。いのちあるものとの対話や交流という体験を通じて、こころのふるさととも言える自然に対する基本的な感情、美意識を子ども時代に磨くことが必要だという内容は、まさに環境教育学会の講演としてぴったりくるものでした。この後、総会が行われ、午後は一般講演と続き、夕方全日程が終了しました。

今年度の一般講演は5領域にわたって80余りの発表が行われました。「環境」に関する意識の高まりを反映して、本学会でも会を重ねるごとに演題が多様化する傾向にあるようです。ただ、若干懸念されることは、「環境教育」として様々な実践が行われるとき、それが多様になるほどに本来的に環境教育が目指すものから離れてしまい、「本当のところどれが環境教育なの?」となってしまうことです。まさに昨年鈴木先生が書かれたように「学会や環境教育ばかり栄えて、肝心の環境は少しもよくなるしない」ことのないように、環境教育の本来の目的と、それを達成するための教育であるという視点をしっかり見据えてはずさないようにしたいものです。

まちのおもしろ探検隊(1)

—まちの商店街探検— こどもの目から街づくり

主催 豊中市中央公民館 共催 豊中駅前青年協議会

期日 6/6(土)~7日(日) 1泊2日

申し込み 06-866-0555 中央公民館

兵庫県ネイチャーゲーム初級指導員養成講座

開催日時 1992年6月26日(金)~28日(日) 2泊3日

開催場所 関西学院千刈キャンプ

参加費 28,000円(学生は26,000円)

募集人数・締切 30名程度・6月10日

申込・問い合わせ 669-13三田市香下銭岩

関西学院千刈キャンプ

TEL.0795-63-5233

ネット・フック

1992年度 春期 甲南大学公開講座

「21世紀の人間と地球の環境を考える」

前8回中未開講分のみ紹介します

5/26(火)ニホンザルの奇形にまなぶ

淡路島モンキーセンター所長 中橋 実

6/2(火) 産業公害を生み出したもの

甲南大学経済学部教授 高橋 哲雄

6/9(火) 環境保護の法的戦略—環境権を中心として—

甲南大学法学部教授 潮海 一雄

6/16(火) コメ環境と日本文学

甲南大学文学部教授 高阪 薫

6/23(火) 喜びの健康科学—環境医学の視座から—

大阪大学名誉教授 中川 米造

6/30(火) 心の汚染と自然・社会環境

甲南大学文学部助教授 谷口 文章

時間 PM1:30~3:00

場所 甲南大学 10号館南棟2F 1021号講義室

受講料 3100円

申し込み、問い合わせ

658 神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南学園企画部広報課

078-431-4341 (内線238)

清里「環境大学」 EARTH VISION'92イベント

主催 読売新聞社 清里「環境大学」実行委員会 アース・ビジョン組織委員会

期日 6/26~28 場所 山梨県清里 (財)KEEP協会清泉寮

募集 学生75人 一般75人 参加費 学生20000円 一般40000円

問い合わせ 03-3423-7155 オークハーツ内 同事務局

環境教育セミナー '92 アメリカの環境教育を体験する

PLT PROJECT LEARNING TREE

講師 PLT米国事務局長 Andy Pasternak

※ 通訳がつきます

PLT は木を中心にした総合学習のアプローチをとった環境教育のプログラムです。最初のテキストは、西部11州からなる環境教育会議の3千人以上の教師が参加した大規模なフィールドテストを通して1975年開発され、全米でもっとも広く採用されている環境教育プログラムです。

主催 (財)京都ユースホステル協会

後援 日本環境学会 国際理解教育資料情報センター

期日 6/21(日) AM9:00~PM4:30

場所 宇多野ユースホステル

定員 40人 参加費 4000円

申し込み 075-462-9185 FAX075-462-2289

(財)京都ユースホステル協会

2001年 地球ウォッチングクラブ 西宮

あつまれ!!生き物大好き人間

- ①参加者全員で「地球の仲間」ウォッチング
街中や水辺にすむ24種の生き物をしらべます
- ②希望者は「こだわりウォッチング」
町並み わが家の環境 なんでもこだわりウォッチング

イベント

EWS オリエンテーション&パントマイム

アース&ヘルス・ウォークラリーIN西宮

見つけたよ!こんな地球・西宮ータイムカプセル92ー

問い合わせ 0798-35-3804 西宮市役所 環境保全課

書籍 雑佳言志

「日本型環境教育の提案」ー自然との共生をめざしてー

清里環境教育フォーラム実行委員会/編

6/8発売 2800円 小学館

「Coppice」ホース=雑木林 身近な自然が見えてくるナチュラルリスト入門誌

6/20発売 1冊 680円 隔月

問い合わせ E. E. NET 03-3707-4653